

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	11 / 1965 / 26-27
タイトル	県下理科研究発表会(第18回)
著者名	伊藤俊助

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 県下理科研究発表会(第18回)

2年 伊 藤 俊 助

昭和46年度青森県小・中・高等学校理科研究発表会は10月3日県立青森東高校に於いて開催された。今年は幸か不幸か頂度、青高祭と発表会の日が重なり我が部はテンヤワンの大さわぎ。連日総動員で2年3年生は研究資料整理に当り文化祭の方は全て一年生任せと相なつた。本校からは生物部の他に初参加の地学部も発表に熱弁を振りました。

我が生物部は動物部会に於いて動物班が見事第一位教育長賞を受賞し、植物部会では長期間に渡つて研究し続けて来た植物班の健闘も虚しく残念な結果となりました。

## 動 物 部 会

(発表順に記入)

### I 十二湖玉池におけるプランクトンの日周活動 ..... 青森高校

1958年より赤沼、蔦沼において調査されてきたプランクトンの日周活動、この研究は幾完成されたものと言つてよかろう。そこで今回は地理的に多少異つた十二湖の方へ場所を移し過去における調査との比較を主な目的としたものでした。発表は2年生の雪田君が行い前日に資料整理で徹夜し部屋に泊るという大変だつたが、なかなか落ち着いた発表でした。

(内容はその項参照されし)

### II 八甲田高層湿原泥炭中の動物 ..... 大三沢高校

先ずはスケールのデカイ事で他を圧しているような感じがした。内容的にも、高校生のやつた物かと思われる立派な研究でした。調査場所は櫛ヶ峯北方湿原(標高1200m、面積約0.96km<sup>2</sup>)と駒ヶ峯南西湿原(標高1220m、面積1.25km<sup>2</sup>)という広い地域に及び非常に苦労した事と思います。生息動物では甲虫幼生、線虫類、ミミズ、甲虫幼生、植物群落ではミズゴケ、イワイチヨウ、チングルマ、シヨウジヨウスゲ、ニソコウキスゲなどとなつており、これらの生物について生息動物と植物群落との関係等が大変詳しく調べられておりました。

### III 塩分濃度の変化とシジミ貝の生息について ..... 金木高校

我々が不断食卓で食べているこのシジミ貝を題材にして、非常に身近かなものを感じ非常におもしろく興味深い研究でした。研究資料を貰えなかつたのが残念。

### IV 汽水プランクトンの日周活動について ..... 金木高校

### V 淡水魚の海水による適応性について ..... 田名部高校

初めこの題目を読んだ時、ああ何とかわいそうな事だろうと思つた。モルモットになる魚は必ず死ななければならぬ。いや人間様に苦しめられて殺されるのだ。実験の結果はフナが塩分濃度限界が60%附近、トゲウオが90%附近、ドジョウが60%附近、ウグイが80%附近となつており、P・Hの点ではやはりP・H7というところが一番住み良いようで、そのP・Hに関しての大小関係は下のようになるそうである。

(ドジョウ<フナ<トゲウオ<ウグイ)

### VI モンシロチヨウの光色による蛹の体色変化 ..... 田名部高校

言わずと知れた環境変化によるホルモンの分泌に関係した研究である。

**Ⅶ** 十二湖周辺の昆虫相 ..... 五所川原農林高校

プログラムを渡された時、ちらつと見てこの題目がいちばん先に目についた。なぜなら調査場所が十二湖とあつては当然の事であろう。我々の発表が終つたすぐ後にその五農の先生が親しみ深く話しかけて来られた。話しによると調査地点もほぼ同じであり、日々も4~5しか我々と違つていながつた。で昆虫だけでなくプランクトンの方も調査され結果が我々と少々異つてゐるという事だそうで、我々もはつきりした返答が出来なかつたのが残念だつた。さて本論の昆虫の方であるが、1962年から連続8回に渡つて採集しており結果は甲虫類450種(うち10種は本県初記録)、トンボ類29種(うち1種は本県初記録)、カメムシ類22種(うち本県初記録1種)、他蝶類51種など全く素晴らしい記録でした。

**Ⅷ** 津軽地方にみられるアメリカザリガニの生態 ..... 弘前南高校

審査員から「立派だつた。学者にとつては大変参考になることです。」というおほめの言葉があつた程の大作で、日本それから青森県への渡来と分布や習性についてよく細かな所まで調査し研究したものである。

## 植 物 部 会

(発表順)

**I** 環境の変化及び空気の流動状態と

空気落下細菌との関係 ..... 青森高校

**II** 原形質分離の研究 ..... 弘前中央高校

**III** ゼニゴケの無性芽の発芽抑制について ..... 同 上

**IV** ゼニゴケの生態的観察 ..... 同 上

**V** 南八甲田高層湿原の植物生態学的研究 ..... 大三沢高校

**VI** 八甲田山五湿原の泥炭花粉からみた  
植物相の遷移の研究 ..... 同 上

**VII** 花粉管の成長観察 ..... 柴田女子高校

**VIII** 市販牛乳の生菌増殖と保存温度との関係について ..... 野辺地高校

(雑感)

8月の調査旅行以来ずうとプランクトンの研究に協力してくれた皆さん、それから校内落下細菌調査に努力して来た皆さん、本当に御苦労さまでした。これまでの皆の努力によりプランクトンの日周活動の方を立派に完成させ発表会では入賞させる事が出来た事は誠にうれしい限りです。その間にはいろいろさまざまな事、いやの事、楽しい事がありました。連日のいやな検鏡で皆の頭がボケてしまつて、湯の島へ避暑(?)に行つたり、資料整理で真夜中0時過ぎ迄部屋に残つたり、空腹で向いのそば屋さんへ掛け込んだりした全て我が生物部のこの一年間の記録であつた。また植物班の方は手違いで発表会場へ重要な部分のチャートを一枚持つて行くのを忘れて、思い通りの発表が出来ず誠に残念な事だつた。

さて来年の事を言うと・・・と言うが、どうしても言いたいので一事言わせてもらう。我々がこれらの研究を最後まで成し遂げる事が出来たのは全て先輩諸氏と我々後輩との、深いつながりによるものと信じてゐる。だから来年度に於ても、この輝やかなしい伝統と、記録を保持、我が生物部発展のため、より一層努力して尽くそうではないか。

## 正 誤 表

原本に「正誤表」が付属している場合、該当部分を以下に転記しています。「行」は、原則としてタイトル行なども含む上からの行数です。「u」が付く場合は下からの行数です。）

頁	行	誤	正
26	10	玉池	王池
26	14	泊まるという大変だった	泊まるという程大変だった
26	34	蝸	蛹
27	4	4～5しか	4～5日しか
27	5	昆中	昆虫
27	24	成長	生長
27	30	いやの事	いなや事
27	31	避暑	避暑